

長野・東條遺跡

ひがししょう

- 1 所在地 長野県千曲市大字八幡字東條
- 2 調査期間 二〇〇六年(平18) 四月～十二月
- 3 発掘機関 長野県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 岡村秀雄・小林秀行・山崎まゆみ
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代後期～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(長野)

東條遺跡は、古墳時代後期から戦国時代にかけての複合遺跡で、埴捨土石流台地から連なる押し出し地形の北東斜面末端部の標高三六六～三八二m前後に立地する。遺跡東端は千曲川左岸の後背湿地に隣接する。今回の発掘調査は国道バイパス建設に伴うものである。検出した主な遺構としては、古墳時代後期から奈良・平安時代の堅穴住居のほか、鎌倉時代後期から戦

国時代の礎石建物・掘立柱建物・木棺墓・井戸・溝、及び四方の壁に二〇～三〇cmほどの礫を廻らせた堅穴状遺構などがある。

木簡は、調査区北側で検出した杭列を伴う溝から一点出土した。一三世紀後半から一四世紀後半の時期の遺構である。溝の東側には隣接して多数の柱・杭が検出されている。

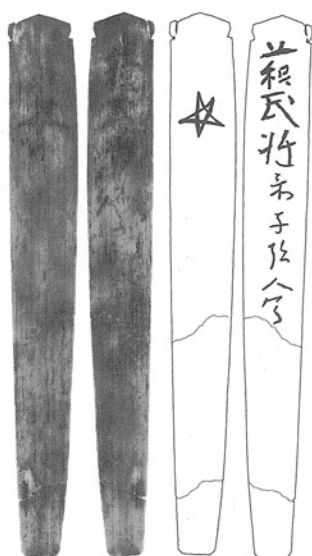
8 木簡の积文・内容

- (1) ・「<蘇民将来子孫人□□」
[家カ]

・「> ☆」

227×28×1 032

上端は切り折り調整により尖り、頭部に切り込みがある。下端部は平坦で、中央部と下部に折れがある。風化が著しく、肉眼では墨書の判読は難しい。釈読にあたっては、奈良文化財研究所史料研究室の方々のご教示を得た。



(赤外線画像)

(岡村秀雄)